

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



農薬を溶かす順序



- 農薬は**混用**で散布するケースが多く、調整時に**沈殿や変性**を起こす場合があります。各農薬が均一に溶けて十分な効果を発揮するためには**順序を守る必要**があります。
- まず、**混用が可能な農薬**どうしか防除暦に添付されている事例集で確認します。
- 水に溶かす順序は、**溶けやすい農薬から溶かす**点です（図）。
- 最も溶けやすい農薬は展着剤（**て**）と液剤。次に乳化剤を含む乳剤（**に**）。フロアブル剤、果粒水和剤、水和剤は全て水和剤（**す**）です。「**てにす**」と覚えましょう。
- ただし、この基本には**例外が多く存在**します。例えばモメントフロアブルは最初に溶かします。**必要に応じて相談**願います。

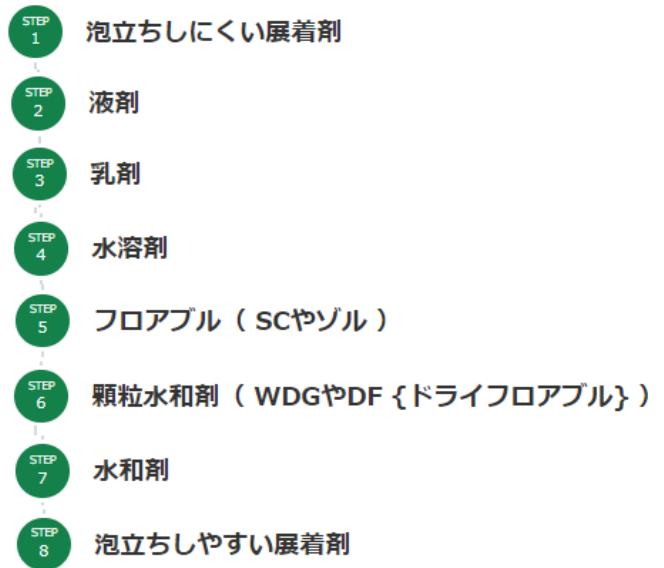


図 農薬を溶かす順序(てにす)



降雨による除草剤処理効果への影響



- 使用機会の多い**グリホサート剤**について処理後の**降雨の影響**を調べました（図）。
- 試験条件：イネ科雑草が地表を覆うモモ園を1辺2~3mで区画化し100倍液を散布処理。**赤**：散布後24時間は降雨なし。**水色**：散布2時間後に十分な水を動噴で散布し洗浄。**緑**：散布液に展着剤ファクタント wk500 倍を添加し処理後同様に水洗浄。
- 結果は3処理区の除草効果は**何れも十分**でした。雑草は**2週間で一掃**されます。
- 天候が不安定な時期ですが散布後2時間降雨がなければ**除草効果**は現れます。

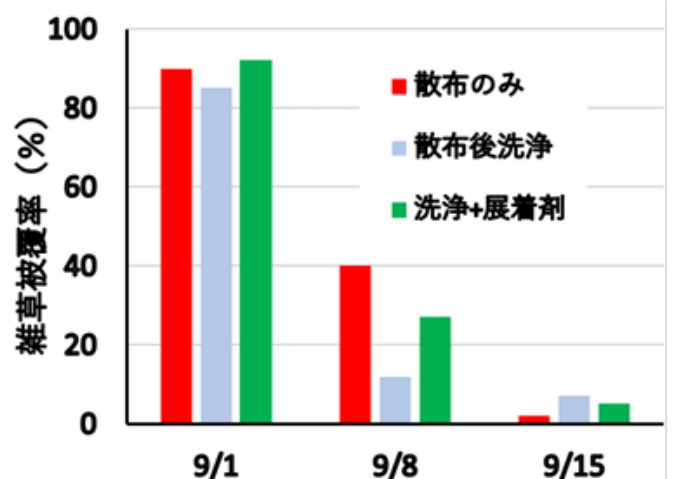


図 グリホサート剤処理効果への降雨の影響